

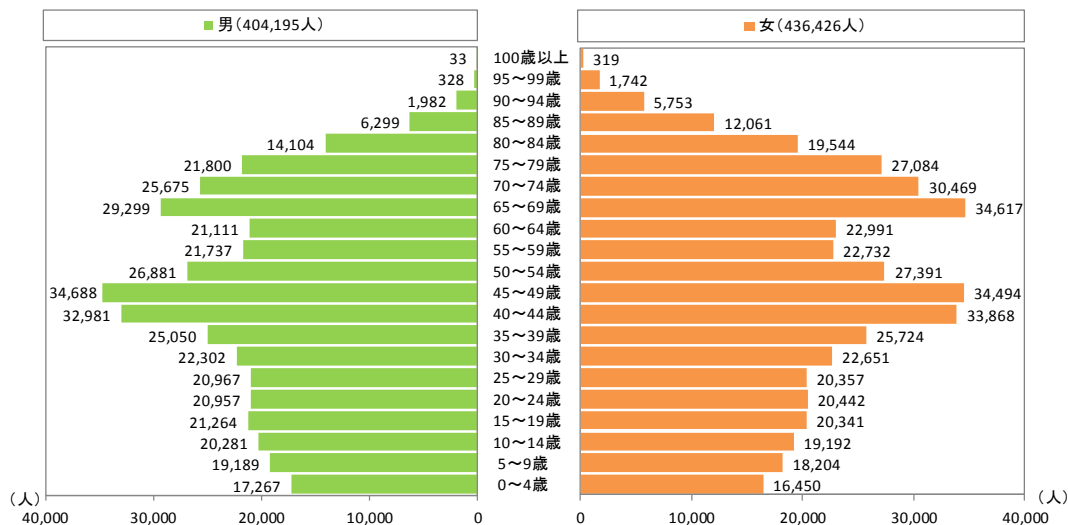
# 堺市の子ども青少年を取り巻く現状

## 1. 人口・世帯の状況

### (1) 人口構造

堺市の人口は、平成 30（2018）年 1 月 1 日現在、男性 404,195 人、女性 436,426 人となっています。5 歳階級別にみると、男性は 45～49 歳、女性は 65～69 歳で最も多くなっています。

図表 1 総人口世帯数の推移堺市の人口・世帯数の推移

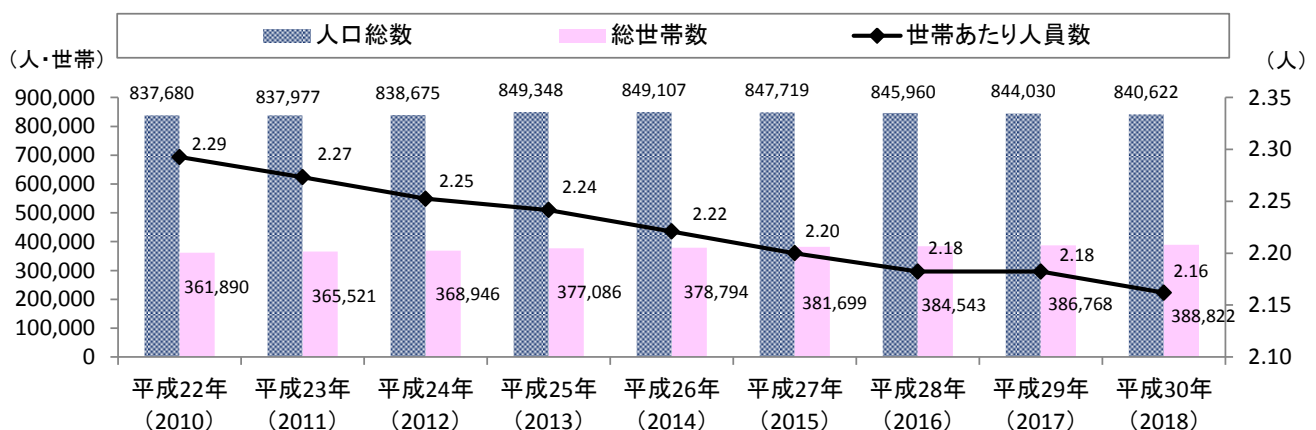


資料：総務省「住民基本台帳人口・世帯数」（平成 30 年 1 月 1 日現在）

### (2) 総人口・世帯数の推移

堺市の人口は、平成 25（2013）年より 84 万人台で推移し、減少傾向にあります。世帯数は増加傾向にあります。世帯あたり人員数は減少しています。

図表 2 総人口世帯数の推移堺市の人口・世帯数の推移



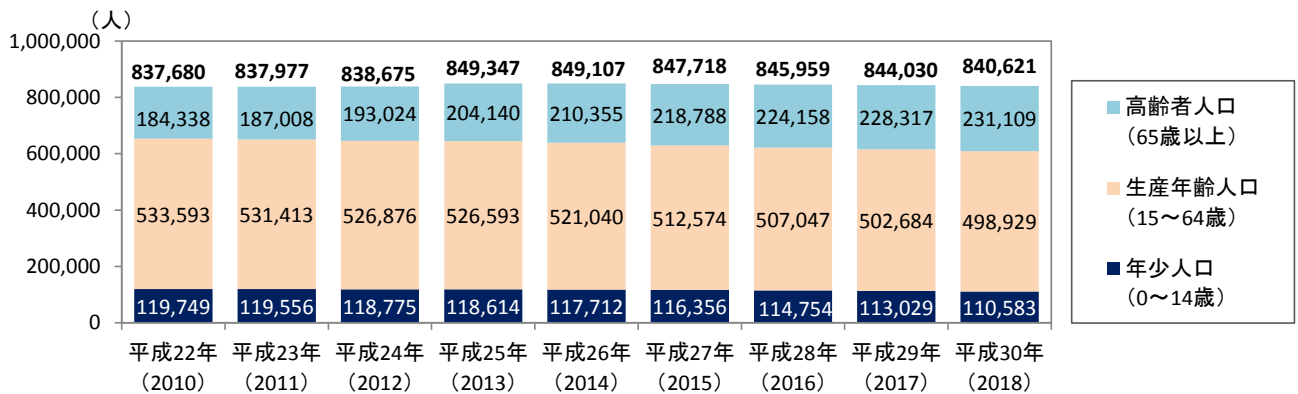
資料：総務省「住民基本台帳人口・世帯数」（平成 25 年まで各年 3 月 31 日、平成 26 年以降 1 月 1 日現在）

## (2) 年齢3区分別人口の推移

堺市の年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向にある一方、高齢者人口は増加し続けています。

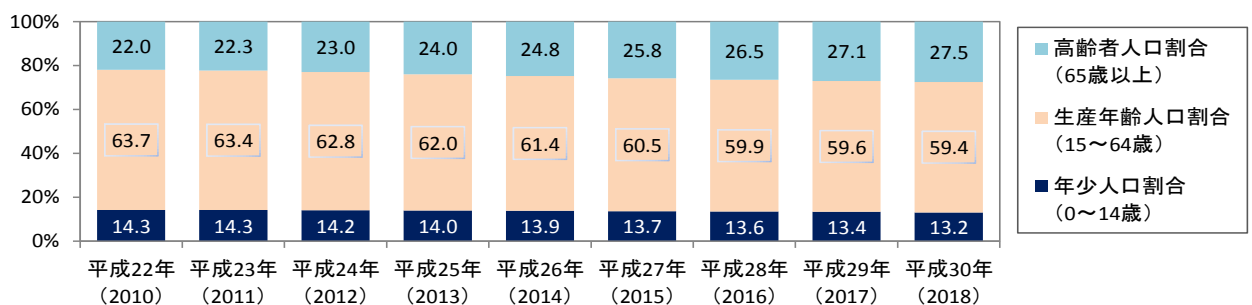
また年少人口を5歳階級別の3区分でみると、「10～14歳」「5～9歳」「0～4歳」の順に多い状態で推移しており、うち「5～9歳」と「0～4歳」の人口は減少が続いています。

図表2 年齢3区分別人口の推移



資料：総務省「住民基本台帳人口・世帯数」（平成25年まで各年3月31日、平成26年以降1月1日現在）

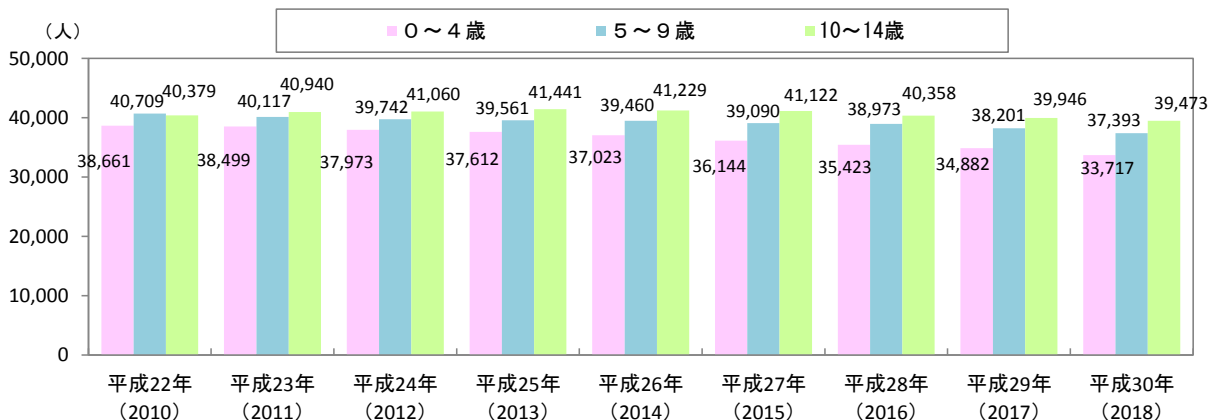
図表3 年齢3区分別人口構成比の推移



資料：総務省「住民基本台帳人口・世帯数」（平成25年まで各年3月31日、平成26年以降1月1日現在）

※端数処理のため、割合の合計が100%にならないことがある。

図表4 年少人口（5歳階級別）の推移



資料：総務省「住民基本台帳人口・世帯数」（平成25年まで各年3月31日、平成26年以降1月1日現在）

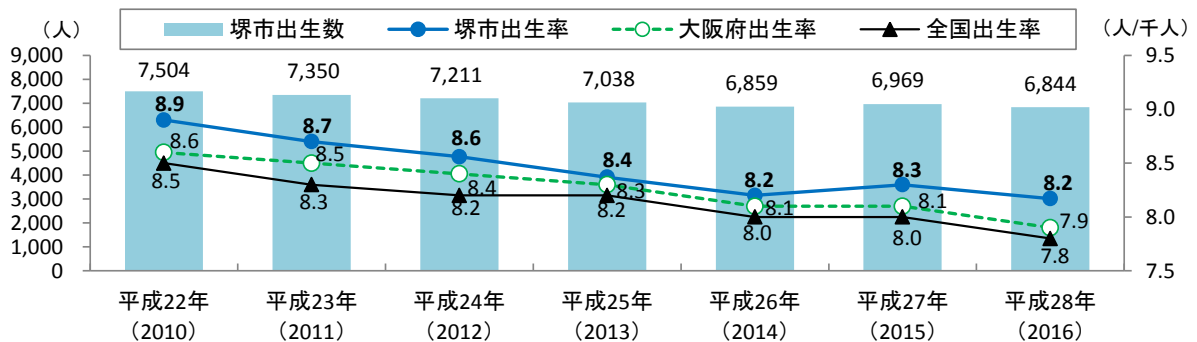
## 2. 子どもの状況

### (1) 出生の状況

堺市の出生数は、平成 22（2010）年以降、減少傾向にあり、平成 28（2016）年に 6,844 人となっています。これにより、出生率（人口千人当たりの出生数）は概ね低下傾向にあり、平成 28（2016）年には 8.2% となっています。国や府の出生率に比べると高い値で推移しています。

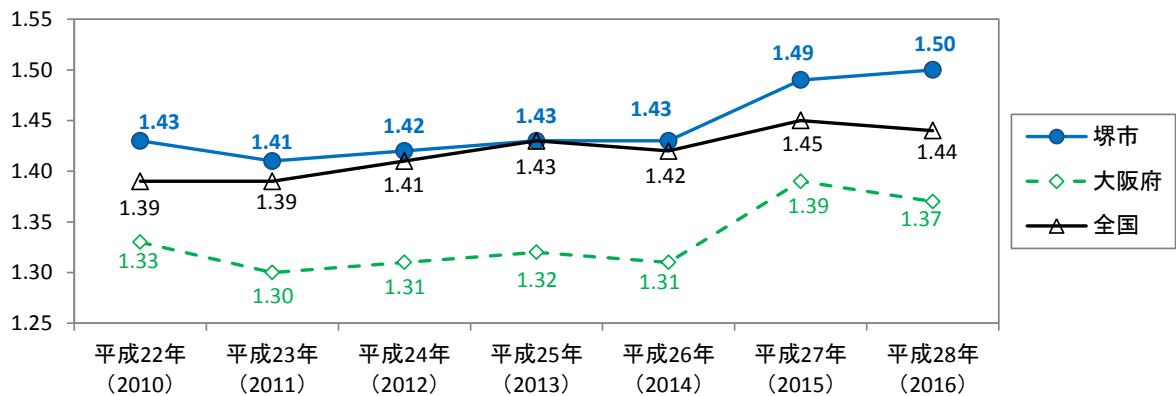
合計特殊出生率<sup>※1</sup>については、堺市における年次の合計特殊出生率は上昇傾向にあります。国や府の値を上回って推移し、平成 28（2016）年に 1.50 となっています。

図表 5 出生数・出生率の推移



資料：大阪府人口動態統計 ※出生率は人口千対

図表 6 合計特殊出生率の推移



資料：堺市調べ

※ 1 合計特殊出生率：15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

## (2) 子どものいる世帯の状況

2015年の国勢調査によると、堺市の一般世帯349,878世帯のうち、6歳未満の子どものいる世帯は32,446世帯で全体の9.3%、うち、核家族世帯は全体の8.6%となっています。また、18歳未満の子どものいる世帯は80,645世帯で全体の23.0%、うち、核家族世帯は全体の20.8%となっており、6歳未満の子どものいる世帯、18歳未満の子どものいる世帯、ともに、大半が核家族世帯となっています。

2005年から2010年の変化をみると、6歳未満の子どものいる世帯の伸び率は-4.0%と減少し、18歳未満の子どものいる世帯の伸び率は0.8%と小幅の増加となっています。

2010年から2015年にかけては、6歳未満の子どものいる世帯の伸び率は-6.4%とさらに減少し、18歳未満の子どものいる世帯の伸び率は-2.5%と減少に転じています。

また、6歳未満の子どものいる世帯、18歳未満の子どものいる世帯ともに、世帯数の伸びに比べて核家族世帯の伸び率のほうが高くなっており、核家族化が進んでいることがわかります。

子どものいる世帯の割合を、大阪府、全国と比べると、6歳未満の子どものいる割合は、堺市9.3%、大阪府8.1%、全国8.7%、18歳未満の子どものいる世帯の割合は、堺市23.0%、大阪府20.4%、全国21.5%となっています。大阪府や全国に比べて子どものいる世帯の割合は高くなっています。

図表7 子どものいる世帯数の推移（2005～2015年）

	2005年		2010年		2015年		2005年 →2010年 の伸び率 (%)	2010年 →2015年 の伸び率 (%)
	実数 (世帯)	構成比 (%)	実数 (世帯)	構成比 (%)	[%] (世帯)	構成比 (%)		
一般世帯総数	318,239	100.0	344,088	100.0	349,878	100	8.1	1.7
6歳未満の 子どものいる世帯	36,114	11.3	34,655	10.1	32,446	9.3	-4.0	-6.4
核家族世帯	32,645	10.3	32,080	9.3	29,979	8.6	-1.7	-6.5
その他の親族世帯	3,469	1.1	2,575	0.7	2,282	0.7	-25.8	-11.4
18歳未満の 子どものいる世帯	82,092	25.8	82,740	24.0	80,645	23.0	0.8	-2.5
核家族世帯	71,534	22.5	74,016	21.5	72,908	20.8	3.5	-1.5
その他の親族世帯	10,496	3.3	8,205	2.4	7,062	2.0	-21.8	-13.9
非親族・単独世帯	62	0.0	519	0.2	675	0.2	837.1	30.1

資料：総務省統計局「国勢調査」

図表8 子どものいる世帯数の比較（2015年）

	堺市	大阪府	全国
一般世帯総数（世帯）	349,878	3,918,441	53,331,797
6歳未満の子どものいる世帯（世帯）	32,446	318,386	4,617,373
構成比（%）	9.3	8.1	8.7
18歳未満の子どものいる世帯（世帯）	80,645	799,568	11,471,850
構成比（%）	23.0	20.4	21.5

資料：総務省統計局「国勢調査」

### 3. 就労の状況

#### (1) 労働力人口

2015年の国勢調査によると、堺市の労働力人口<sup>※3</sup>は、385,895人で、うち男性が56.9%、女性が43.1%となっています。2005年から2010年への変化を見ると、労働力人口は全体として減少していますが、その伸び率は男性が-4.34%であるのに対し女性は1.07%と、女性のほうは増加していることがわかります。また、2010年から2015年にかけての労働力人口も、全体として減少しているものの、男性の伸び率-3.71%に対して、女性の伸び率2.32%と、女性のほうは増加しています。

図表9 労働力人口

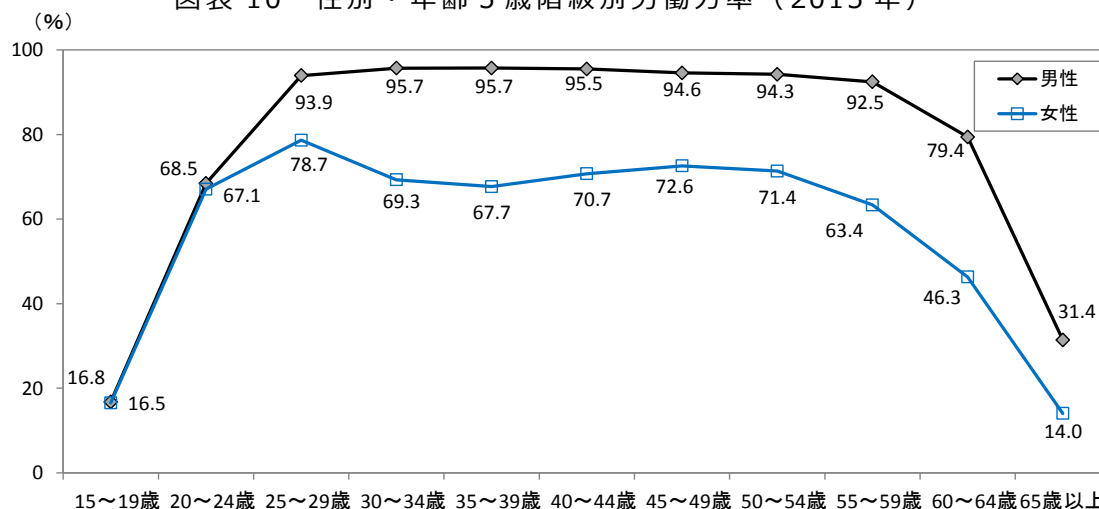
		2005年		2010年		2015年		2005年→ 2010年 の伸び率 (%)	2010年→ 2015年 の伸び率 (%)
		実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比		
		(世帯)	(%)	(世帯)	(%)	(世帯)	(%)		
15歳以上 人口	総数	708,317	100.0	720,642	100.0	720,030	100.0	1.74	-0.08
	男性	337,331	47.6	342,484	47.5	341,049	47.4	1.53	-0.42
	女性	370,986	52.4	378,158	52.5	378,981	52.6	1.93	0.22
労働力 人口	総数	399,226	100.0	390,588	100.0	385,895	100.0	-2.16	-1.20
	男性	238,427	59.7	228,072	58.4	219,606	56.9	-4.34	-3.71
	女性	160,799	40.3	162,516	41.6	166,289	43.1	1.07	2.32

資料：総務省統計局「国勢調査」

#### (2) 労働力率

堺市の2015年の年齢階級別・男女別の労働力率<sup>※4</sup>を見ると、男性では、25～59歳にかけて労働力率が9割台と一定となっているのに対し、女性では、30～39歳で労働力率が6割台に落ち込んだのち高くなり、50歳以上から低下していきます。30歳以上では45～49歳の72.6%が最も高い労働力率となっていますが、25～29歳の78.7%と比べると若干低い値となっています。

図表10 性別・年齢5歳階級別労働力率（2015年）



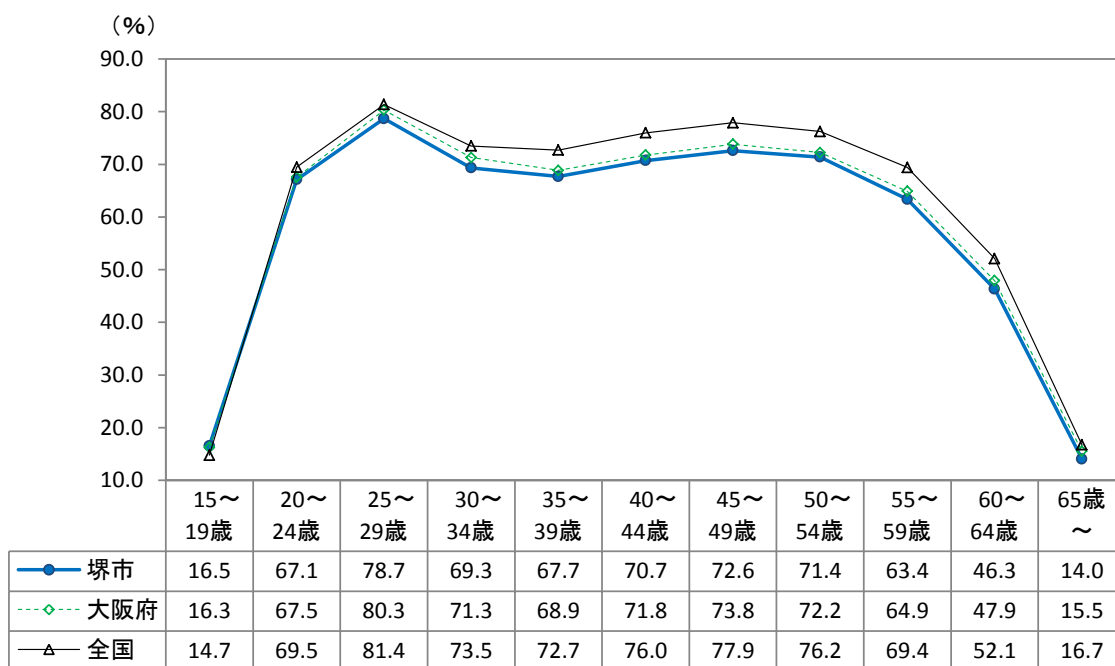
資料：総務省統計局「国勢調査」

※3 労働力人口：15歳以上の人口のうち、「就業者」と「完全失業者」を合わせたもの。

※4 労働力率：15歳以上人口に占める労働力人口の割合。労働力状態「不詳」を除いて算出。巻末参照。

年齢階級別に比較すると、20歳以上のすべての年齢階級における労働力率が、大阪府や全国と比べて低くなっています。

図表 11 労働力率～大阪府・全国との比較～（2015年）



資料：総務省統計局「国勢調査」

### （3）就業状態

男女別就業者数について大阪府・全国と比較すると、就業者数に占める女性の割合は、堺市 43.5%、大阪府 44.2%、全国 43.9%と大差はありません。有配偶の女性の占める割合は、堺市 23.9%となっており、大阪府の 23.5%よりは僅差で高いものの、全国の 25.9%に比べて低くなっています。

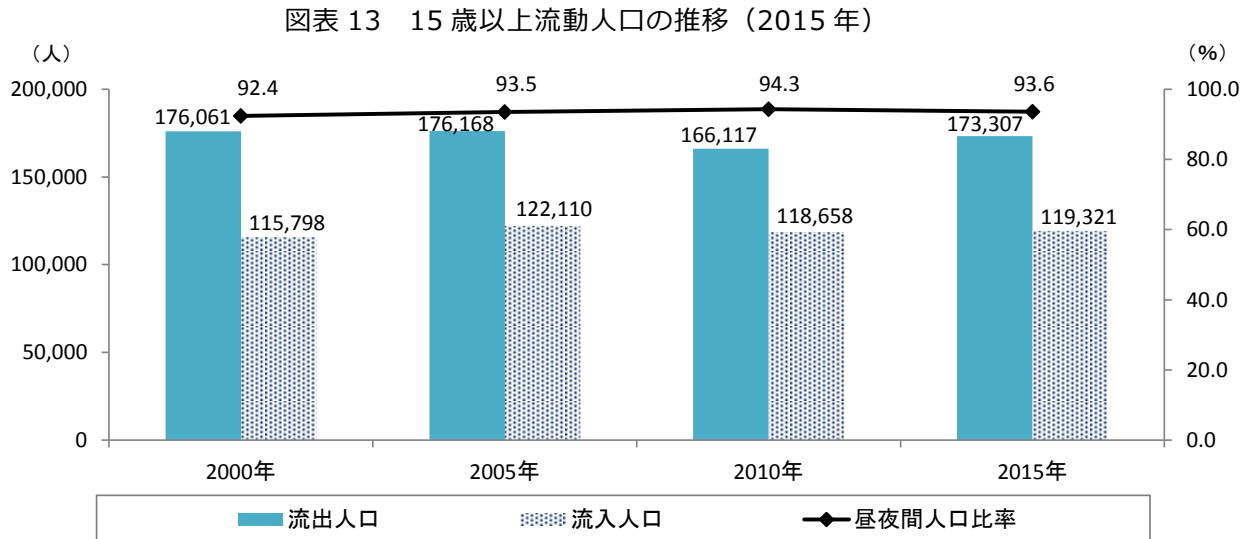
図表 12 男女別就業者数の比較（2015年）

	全体	男性	女性	うち、有配偶の女性
堺市（人）	365,836	206,632	159,204	87,479
構成比（%）	100.0	56.5	43.5	23.9
大阪府（人）	3,777,668	2,108,926	1,668,742	889,111
構成比（%）	100.0	55.8	44.2	23.5
全国（人）	58,919,306	33,077,829	25,841,477	15,264,426
構成比（%）	100.0	56.1	43.9	25.9

資料：総務省統計局「国勢調査」

## (4) 流動人口

2015年の国勢調査によると、流出人口は173,307人、流入人口は119,321人と、流出超過となっています。また、2010年の昼夜間人口比率<sup>※5</sup>は93.6%となっており、2010年より低下しています。



資料：総務省統計局「国勢調査」

※注：「流出人口」とは、堺市に常住し、堺市外で従業・通学している人口、  
「流入人口」とは、堺市外に常住し、堺市で従業・通学している人口である。

※5 昼夜間人口比：「常住人口（夜間人口）」に対する「昼間人口」の割合。常住人口とは、当該市町村の常住人口に当該市町村への流入人口と当該市町村からの流出人口を加減して算出した人口。

$$\text{昼間人口} = \text{常住人口} + \text{流入人口} - \text{流出人口}$$

$$\text{昼夜間人口比率} = \text{常住人口（夜間人口）} \div \text{昼間人口}$$

■参考 労働力状態：15歳以上の人について、国勢調査の調査年の9月24日から30日までの1週間（調査週間）に「仕事をしたかどうかの別」により、次のとおり区分したものです。

